

空港機能の提供を通じて空を支える



空港施設株式会社

〒144-0041 東京都大田区羽田空港1-6-5 第五総合ビル
TEL : 03 (3747) 0251 (代表) FAX : 03 (3747) 0225

AIRPORT FACILITIES IRハンドブック
IR HANDBOOK

VOL.24



空港施設株式会社

証券コード:8864

社長メッセージ

Top Message



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

厳しい経済情勢が続く中、航空会社は一層の経営改革の努力を進められるものと思われ、私たち空港施設グループの事業も、その影響を少なからず受けることが予想されます。しかしながらこのような経営改革のときだからこそ、当社グループは、航空会社の期待に応えるべく、積極的に空港機能の維持・確保に取り組む、その使命を果たしてまいります。

これまでも当社グループは、空港での必要な施設や機能を提供し、航空会社をはじめとする多くのお客様から厚くご信頼いただいております。このような今までの実績と経験を大事にしながら、現在、事業の受注のため従来にも増した経営努力にまい進しております。

最近では東京国際空港の新整備場地区において、航空機の安全のための各種整備施設、乗員訓練施設のほとんどを建設させていただいております。この1～2年の動きといたしましては、全日本空輸からエンジンメンテナンスビル南棟やコンポーネントメンテナンスビルを依頼され4月に竣工しました。同ビルは環境・省エネ配慮の面でも新しい取り組みとなっております。

当社だからこそ、このようなご用命を受けることができたのであり、長年の努力が成果に結びついた事例であると考えております。今後とも、このような努力を積み重ねてまいります。株主の皆様への還元につきましても、安定的な配当をできる限り維持・継続できるよう努力してまいりたいと考えております。

本冊子では、東京国際空港における最近の事業展開及び投資案件(コンポーネントメンテナンスビル)のご紹介もさせていただいておりますので、ご高覧いただければと存じます。

代表取締役社長
高橋朋敬

CONTENTS

社長メッセージ		中長期的展望	04
利益還元に対する考え方/投資案件のご紹介	01	第2四半期業績のポイントと当期の見通し	06
事業概要	02	連結財務データ(5年推移)	07
東京国際空港における事業展開	03	ホームページを是非ご覧ください	09

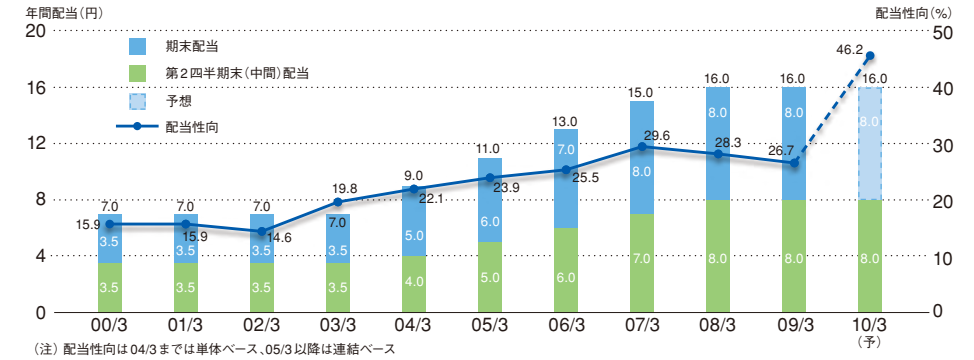
当誌に記載された業績見通し等の将来に関する記述は、当誌編集時点当社が入手している情報、及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

利益還元に対する考え方

Return to shareholders

安定した経営基盤の維持、財務体質の強化、新たな事業機会や投資機会のための内部留保の確保、中長期的な業績見通し、そして現下の金融情勢等の状況を考慮しながら、安定的な配当に努めてまいります。2010年3月期においては、11月24日に中間配当8円を実施いたしました。

1株当たり年間配当、配当性向の推移

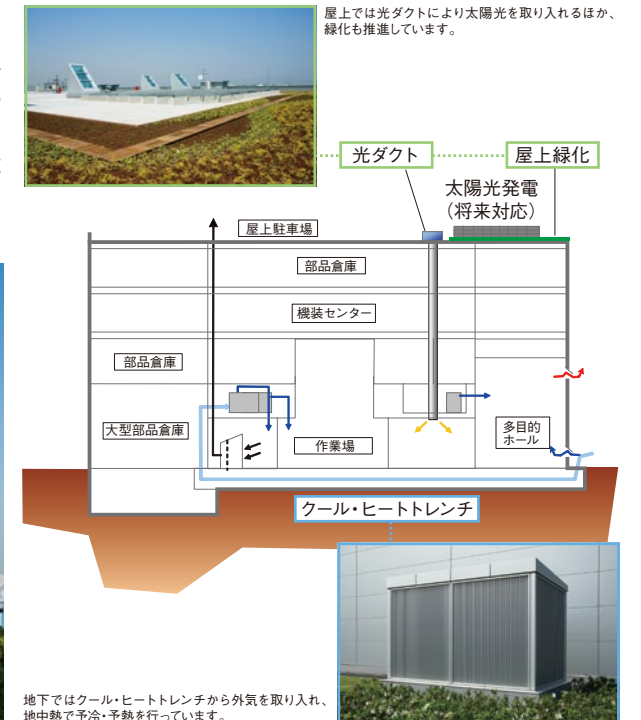


投資案件のご紹介

New Facilities

環境にも配慮したコンポーネントメンテナンスビル

全日本空輸株式会社からの要請を受けて2009年4月に竣工した「コンポーネントメンテナンスビル」は最新の航空機エンジン制御部品、計器類等の電子装備品の整備工場ですが、光ダクト、屋上緑化、地下クール・ヒートトレンチ、太陽光発電パネル(将来対応)など、環境配慮においても新しい取り組みを行っています。



事業概要

Our Business

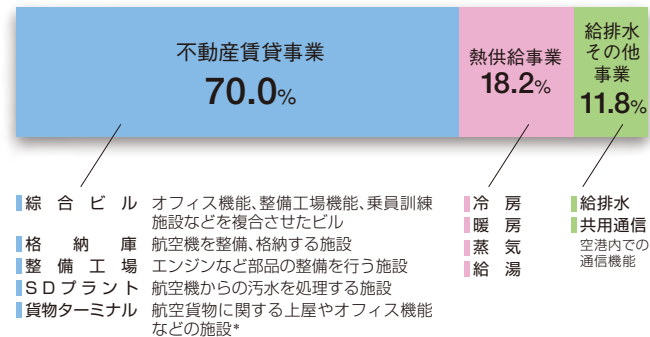
■ 空港に必要な施設と機能を創造、提供しています

空港施設株式会社は1970年の設立以来、空港を事業拠点とし、空港に必要な施設と機能を建設、運営管理することで、安全な空港運営及び航空会社の運航をサポートしてきました。主要事業として、空港内において、

- 航空機格納庫、整備工場、航空貨物上屋、航空機洗機施設、航空機污水处理施設、事務所ビルの賃貸
 - 冷暖房などの熱供給
 - 上下水道施設の運営管理、通信等
- を行っています。

活動は全国域におよび、東京国際空港を拠点に、北は新千歳空港から南は那覇空港に至る国内10空港でサービスを提供しています。

部門別売上高構成比(2010年3月期第2四半期累計)



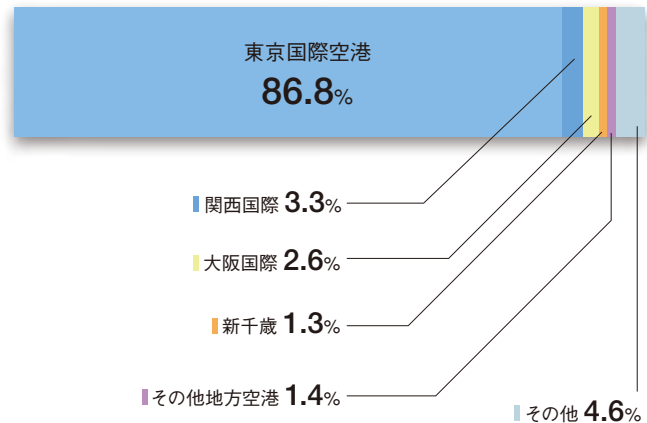
*当社国内貨物ターミナル施設は、新空港法に基づく空港機能施設として指定されたことから、国の定める「基本方針」に従って施設を適切に管理してまいります。

■ 空港における事業の特殊性

多くの人やモノが行き交う空港での事業は、顧客である航空会社等のニーズを集約することはもちろん、国の空港計画の進展と歩調を合わせたうえで、空港管理者である国に対し、国有地の利用などいくつかの許可申請の承諾を経てはじめて事業を展開することができます。この点は、当社グループの事業特性のひとつとなっています。

また、空港に設置される施設は、保安上、制限や基準があります。防災・警備体制には厳しい基準が要求され、建物の

地域別売上高構成比(2010年3月期第2四半期累計)

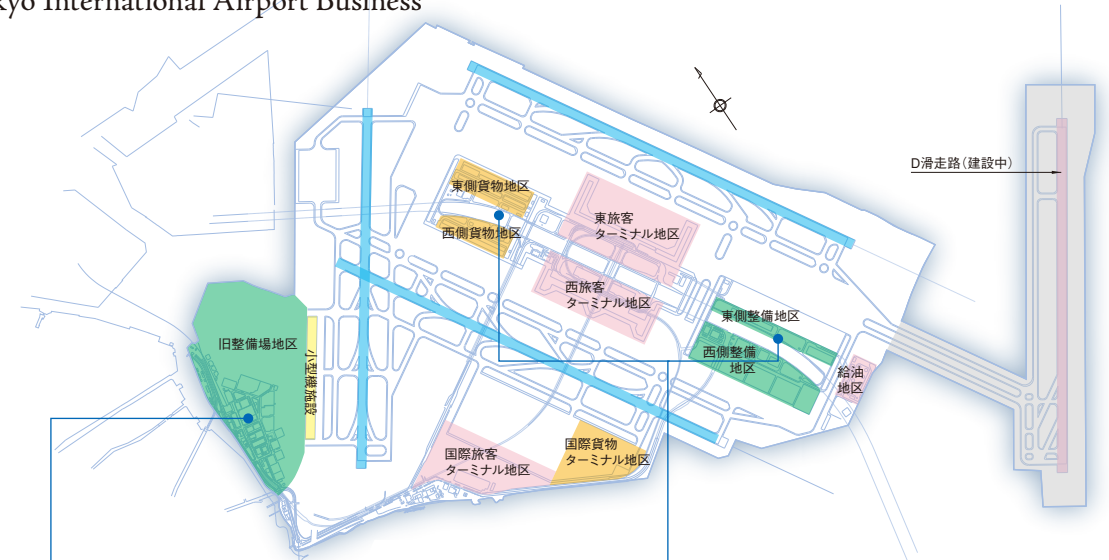


高さや航空障害灯の設置にも、法律等により制限が設けられています。空港内での事業の難しさは、施設の一つひとつが特殊であるだけでなく、「空港」という限られた土地の有効利用や技術的に考慮すべき点が多いことにあると考えます。

空港施設グループは創立以来、このように特殊性のある事業において着実に実績とノウハウを積み重ね、顧客である航空会社をはじめ多くのステークホルダーから信頼をいただいています。

東京国際空港における事業展開

Tokyo International Airport Business



■ 旧整備場地区(1丁目地区)

当社は1970年の設立当初より、東京国際空港の旧整備場地区にて総合ビル、格納庫、SDプラント(航空機污水处理施設)等の多様な施設を建設し、運営管理を行っています。

同地区では地域冷暖房方式による熱供給システムが確立されており、当社は地区全域の総合ビル、格納庫などの施設に対し、24時間体制で冷房、暖房、給湯、蒸気の効率的かつ安定した供給を行っています。この熱供給システムは、各施設に設置される冷暖房熱源に代え、中央のエネギーセンターでつくられる冷温熱源をパイプラインに通して供給するものです。

■ 沖合展開地区(3丁目地区)

東京国際空港の沖合展開事業に伴い、整備地区及び貨物地区において、積極的な事業展開を行っています。

整備地区では、格納庫、車輻整備工場、航空機部品整備工場及び事務所ビルなどを航空会社及び航空関連会社等へ賃貸しています。同地区では当社グループの東京空港冷暖房株式会社が、沖合展開地区における熱供給事業を行っています。

貨物地区では、貨物上屋及び多目的ビルの建設、運営管理を行い、航空貨物の円滑な運営をサポートしています。今後はD滑走路の建設による航空需要の増大に伴い、航空貨物の需要拡大が見込まれます。また、アークビル内の一部スペースは、客室乗務員の訓練施設として利用されています。



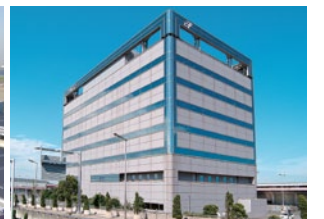
多目的ビル(ユーティリティセンタービル)



航空機格納庫



東側貨物ターミナル



多目的ビル(アークビル)

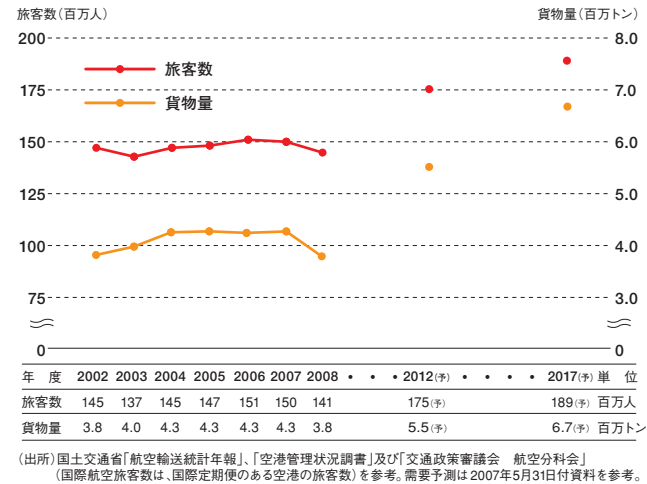
中長期的展望 —高まるビジネスチャンスを最大限に活かしていきます—

Medium- to long-term vision

中長期的成長が予想される航空需要

世界同時不況の影響から、航空業界においても航空旅客数・貨物量共に落ち込みを余儀なくされています。しかしながら、アジアを中心とする景気の回復、経済の発展は底堅く、日本経済も、この動きの中で景気を回復していくものと予想されます。それに伴い、航空需要も再び成長軌道に戻ることが見込まれています。

航空需要の推移と予測(旅客・貨物)

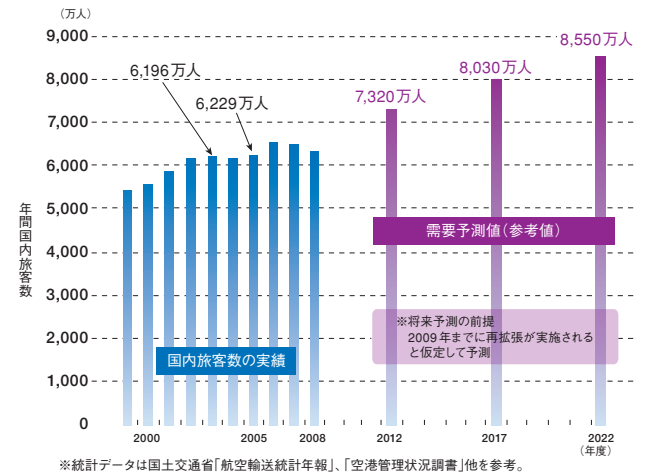


航空業界のニーズや方向性を踏まえ、新たな取り組みへの準備を進めます

このようなことから東京国際空港では、新たなD滑走路新設や再国際化等の再拡張事業のみならず、既存の3,000メートルC滑走路延伸等、更なる空港機能の向上を目指した国の整備計画が着々と進められています。

当社は再拡張事業と足並みをそろえ、新整備場地区において、航空機の安全のための各種整備施設や乗員訓練施設を建設してまいりました。さらに旧整備場地区や空港跡地においても今後の再開発が見込まれていることから、航空会社のニーズや航空界の発展の方向を踏まえ、新たな取り組みのための調査・検討を進めてまいります。

東京国際空港の国内旅客数の実績及び将来予測



東京国際空港における空港施設グループの最近の取組み

以下にご紹介するのは、東京国際空港における当社グループの最近の取組み例です。今後も航空会社のニーズを適切に分析し、お客様に喜ばれる施設や機能を提供し、積極的に事業拡大を図ります。

2007年 3月 竣工

第2テクニカルセンター(増築)

用途	乗員訓練施設
入居者	(株)日本航空インターナショナル

2007年 3月 竣工

航空機洗機施設

用途	航空機洗浄
入居者	(株)日本航空インターナショナル 全日本空輸(株) スカイマーク(株)ほか

2008年 2月 竣工

エンジンメンテナンスビル

用途	航空機エンジンの整備工場
入居者	全日本空輸(株)

2009年 4月 竣工

コンポーネントメンテナンスビル

用途	航空機の電子・電気関連部品等の整備工場
入居者	全日本空輸(株)

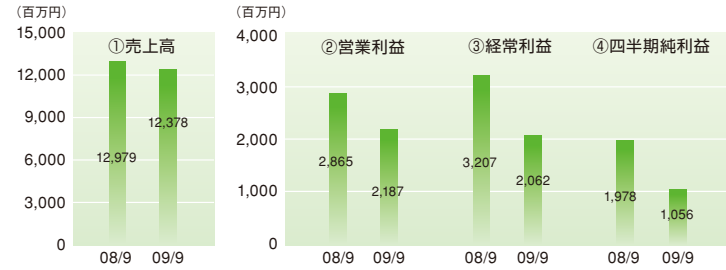
✈️ 巻頭P1で詳しくご紹介しています。

第2四半期業績のポイントと当期の見通し

Financial Highlights & Forecasts

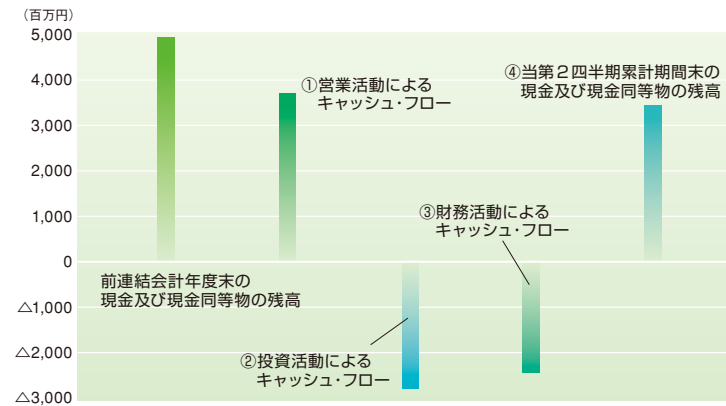
2010年3月期第2四半期連結累計期間のポイント

連結業績



- ①コンポーネントメンテナンスビルの新規稼働による賃料増はあったものの一部施設の解約等の影響から、売上高は前年同期比4.6%減となりました。
- ②新規稼働に伴う減価償却費や不動産取得税等の増加等により、営業利益は前年同期比23.7%減となりました。
- ③前期計上した子会社からの受取配当金が当期は発生しないこと等から、経常利益は前年同期比35.7%減となりました。
- ④経常利益の減少、及び投資有価証券評価損を中心とする特別損失等から、四半期純利益は前年同期比46.6%減となりました。

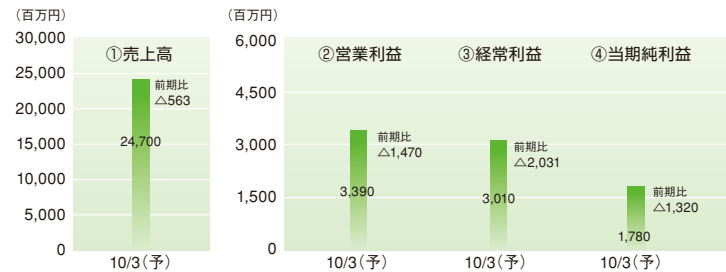
連結キャッシュ・フロー



- ①税金等調整前四半期純利益1,924百万円に減価償却費や売上債権等の加減算を行った結果、3,680百万円の収入となりました。
- ②コンポーネントメンテナンスビルの新築に伴う有形固定資産の取得等により、2,766百万円の支出となりました。
- ③設備資金に充当する長期借入の実行と返済、預り保証金の返済等により、2,422百万円の支出となりました。
- ④以上により、現金及び現金同等物の残高は前連結会計年度末から1,507百万円減少し、3,423百万円となりました。

2010年3月期の見通し

連結業績

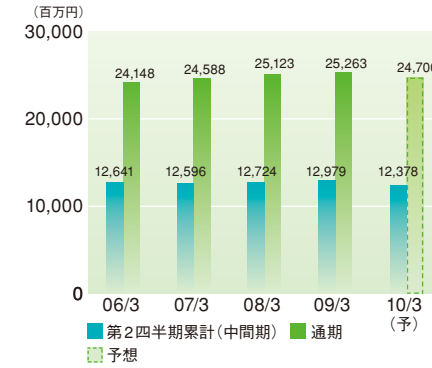


- ①コンポーネントメンテナンスビル新築に伴う賃料増加、航空会館の売上増が寄与するものの、第三総合ビル、第八総合ビルや貨物上屋等の一部解約の影響等から、売上高は前期比2.2%減(563百万円減)となる見込みです。
- ②コンポーネントメンテナンスビルの減価償却費の増加等を主に、営業利益は前期比30.3%減(1,470百万円減)となる見込みです。

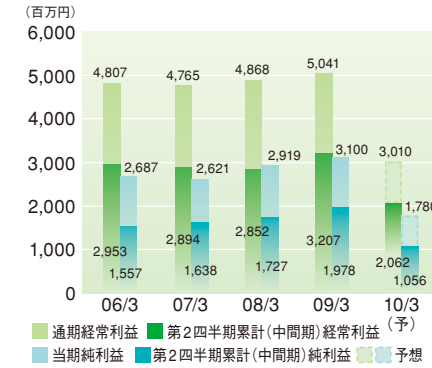
連結財務データ(5年推移)

Consolidated Financial Data

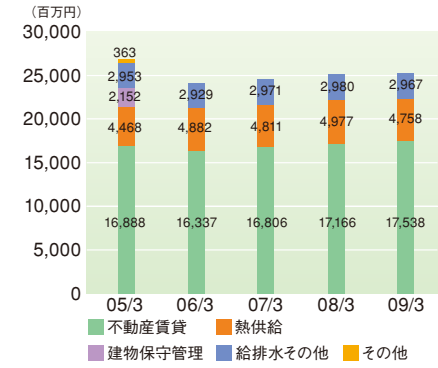
売上高推移



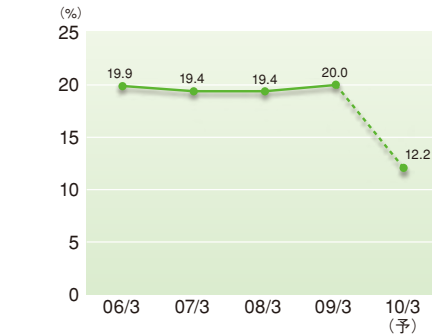
経常利益/当期純利益推移



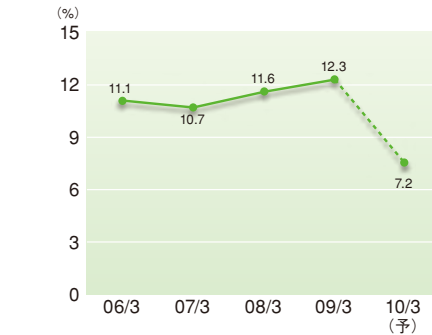
部門別売上高推移



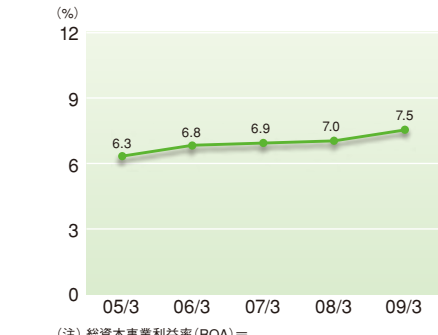
売上高経常利益率



売上高当期純利益率

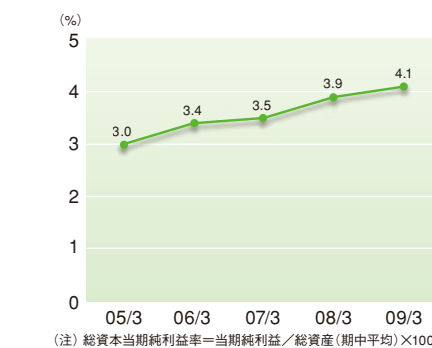


総資本事業利益率(ROA)



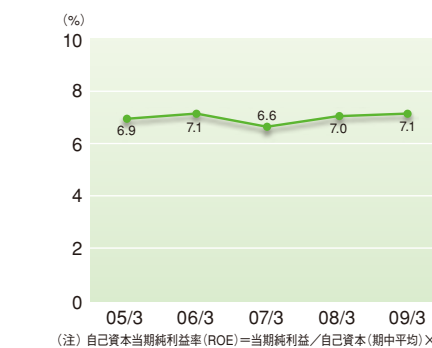
(注) 総資本事業利益率(ROA) = (営業利益+受取利息+配当金) / 総資産(期中平均) × 100

総資本当期純利益率



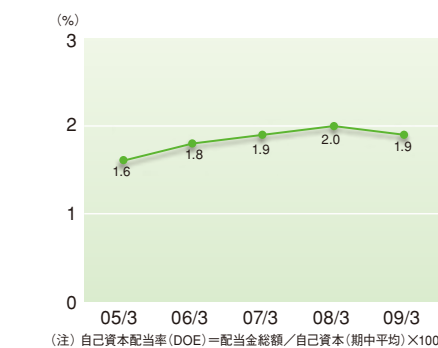
(注) 総資本当期純利益率 = 当期純利益 / 総資産(期中平均) × 100

自己資本当期純利益率(ROE)



(注) 自己資本当期純利益率(ROE) = 当期純利益 / 自己資本(期中平均) × 100

自己資本配当率(DOE)



(注) 自己資本配当率(DOE) = 配当金総額 / 自己資本(期中平均) × 100

ホームページを是非ご覧ください

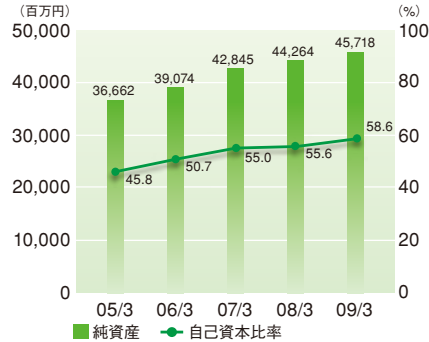
空港施設

検索

<http://www.afc-group.jp/>

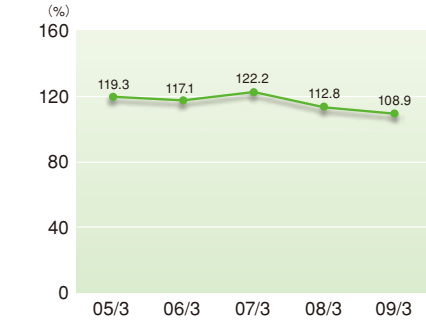
当社のことをより深くご理解いただくため、ホームページの拡充に取り組んでおります。当社は羽田空港を中心に、航空機の安全運航のために必要不可欠な格納庫、エンジン・機器整備施設、運航訓練施設等を提供しております。ホームページの「施設紹介」ではそうした当社施設の機能、特徴をご理解いただけるほか、「空港の舞台裏」では、利用シーンを動画でご覧いただけます。IR情報もこれまで同様に充実させてまいります。

純資産／自己資本比率



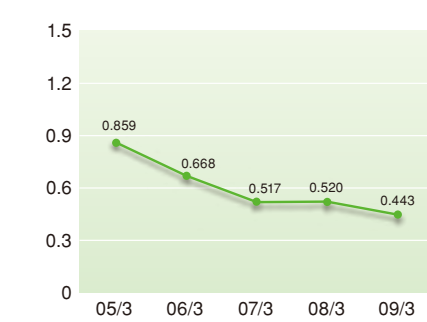
(注) 2006年3月期以前の純資産には、少数株主持分が含まれておりません。

固定長期適合比率



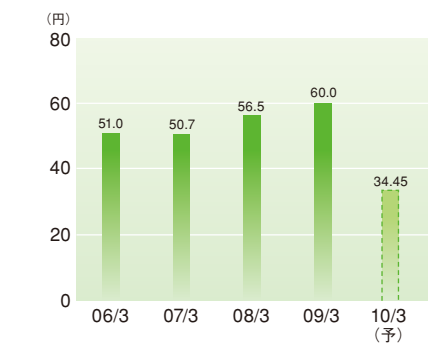
(注) 固定長期適合比率=固定資産(期末)／自己資本(期末)+固定負債(期末)×100

D/Eレシオ

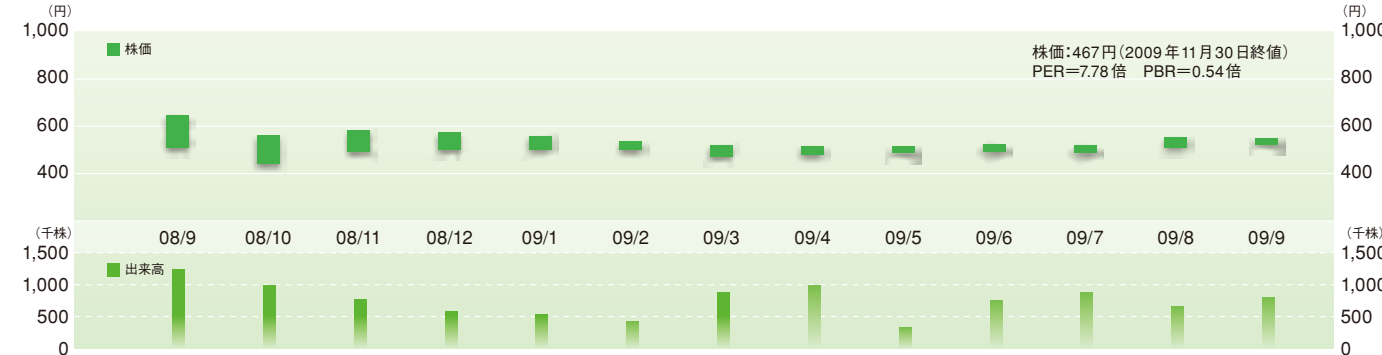


(注) D/Eレシオ=有利子負債(期末)／自己資本(期末)

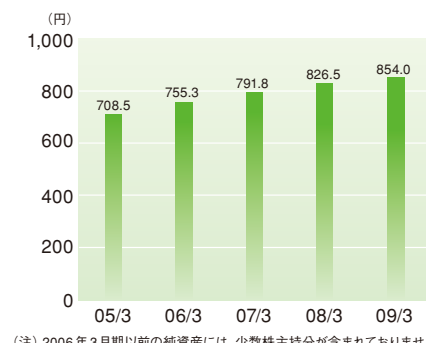
1株当たり当期純利益



株価および出来高(月足)

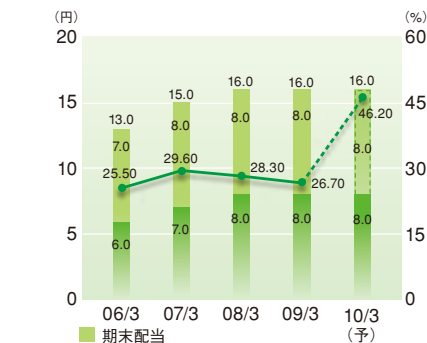


1株当たり純資産



(注) 2006年3月期以前の純資産には、少数株主持分が含まれておりません。

1株当たり配当金／配当性向



Click!

当社が提供する空港機能やその特徴を、わかりやすく解説しています。

航空機メンテナンスに欠かせない格納庫について、臨場感あふれる動画と音声でご紹介しています。